

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



2016~2017年度 No.215

## 12月 月報

那須クラブ会長 主題  
拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間：EMC

那須ワイズメンズク



11月(那須街道赤松美林 植樹)例会 11月4日(土)

2017~2018年度 主題  
 国際会長：(IP) Henry J Grindheim (ノールウェイ)  
 「ともに、光の中を歩もう」  
 アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)  
 「ワイズ運動を尊重しよう」  
 東日本区理事：(RD) 栗本 治郎(熱海)  
 「広げよう ワイズの仲間」  
 北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)  
 「距離に負けるな北東部、各クラブの個性を磨きましょう」

クラブ役員 事務局  
 会長：田村 修也  
 副会長：村田 榮  
 河野 順子  
 書記：内海 研治  
 会計：村田・鈴木  
 担当主事：内海 研治  
 ブリテン：田村・村田

11月例会データー(出席率：66.7%)  
 在籍者 6名  
 例会出席者 3名 メネット 1名  
 ゲスト 27名 メイクアップ 1名

今月の聖句  
 あなたがたは、選ばれた民、主の系統を引く司祭、聖なる国民、神のものとなった民です。

12月 Happy Birthday

なし



## 巻 頭 言

### 雑 感

村田 榮

今年70歳を迎え、前期高齢者の仲間入りをしました。ワイズの中ではまだまだ鼻たれ小僧であるにすぎません。しかし地域の中では上から数えられるようになりました。今までとは違い、昨年暮れから風邪をひいてしまって3か月ほど風邪が完治しませんでした。体調管理の難しさを感じました。また、夏には自分の不注意から熱中症になり、1週間ほど仕事になりませんでした。10月になり、眼鏡の度数が合わないので、眼科に行くと「白内障です手術しますか」とお医者様に言われ、10月末に手術し現在治療中です。

ゆうに親父お生きた年を超えてしまっています（親父は64歳で死亡）。70年も使い込んだ身体、色んなところにガタが来ているようです。少しギヤードウンして身体と相談をしながら物事にあたっていくことにします。長兄は、84歳今も現役で山の仕事をしています。

長兄夫婦一家にはおふくろが103歳まで面倒を見てもらいました（今でいう介護です）。今になって考えれば、旅行に行きたかってもおふくろの介護のために自分たちの生活を犠牲にし、最後まで家で生活（昔であれば家で看取ることが当たり前でしたし、長兄家族の仕事でした）を見てくれたものだ感謝の気持ちでいっぱいです。置き換えると私たちに同じことができるかと問いかけているようです。92歳・90歳のメネットの親の介護をする立場になって大変難しさを感じています。

アドベントの時を迎えて、YMCAの活動・ワイズの活動が主に祝福され、那須地域に広がりを見せていくことができるように頑張りたいものです。皆様のお支えとご加禱をお願いします。

思いつくままの参文になってしまいましたお許しください。

## 11月（那須街道赤松美林 植樹）例会

会長 田村 修也

日時：11月4日（土）10：00～13：00

場所：那須街道赤松美林

参加者：田村会長、河野副会長、村田副会長の各メン。

メネット：田村、

ゲスト：YMCA関係者、黒磯ガールスカウト、塩那森林管理署職員ほか27名

合計：31名

日光国立公園那須への玄関口は、母なる那珂川に架かる名橋「晩翠橋」。この橋を渡ってすぐに左折すると、那珂川に沿って名峰那須茶臼岳を主峰とする那須連山、そしてその裾野に広がる那須高原に向かって街道の両側に天然赤松の美林が続いています。この那須街道の終点近くの一軒茶屋付近を右折すると御用邸があります。この赤松林もかつては宮内庁御料林のとして管理されていました。戦後国有林となり、165ha全域が食料増産の必要の為開墾の計画がありましたが、那須街道沿いの79haは風致の維持のために特別に残された経緯があります。昭和60年代に入りマツクイムシの被害が北上してきてその被害木が増大し、毎年900本が減少していく状況が続く、2万本を誇った天然赤松の重厚な林が、現在ではやく9000本という疎林となり開墾した農地や住宅地が透けて見えるようになってしまいました。このままではコナラやアカシデ、ヤマザクラ等の広葉樹林に移行してしまうことが危惧されます。その推移の中でオオタカの棲息適地となり、その環境を維持していくために、ワイズの植林作業に先んじて過日オオタカ基金による植樹活動が例年のように行われました。この林の中に「森林浴一万歩の森」と名付けられた5.8kmに及ぶ遊歩道があり、1年を通して愛好者が森林浴を楽しんでいます。前書きがつい長くなってしまいました。



地掻き作業の様子

ワイズの植林活動は2004年から始まりました。始めは塩原の大沼園地周辺再生のための植林でしたが、2年後には現在の赤松林の再生植林になりました。早いものです。もう11年になります。参加予定者が時間通りに集合しましたので、開会の挨拶をしましたが、何と意図しなかったのですが、「小さな木の実が一粒ずつ、小さな木の芽をだし、木の芽は明るい天を仰いで小さな森になる。育て森よ、たくましく、森は我らのもの、地球の仲間。」という全国緑の少年団の団歌が口からでてしまいました。黒磯のGS栃木県第34団の皆さんが、今年もリーダーを含めて14名も参加してください、スカウトを目の前にしての挨拶がそうさせたのでしょうか。メンバーの勧誘で初めて参加して下

さったご夫妻もおりました。作業は先ず天然下種更新のため、スチールの熊手で地掻きをしました。堆積した落葉等を掻き起こして地面を露出させて、落ちた種が地面にしっかりと落ちて着いて発芽し易いように誘導するためです。その後、予め国有林の方々が篠竹で適切に植え付け場所を設定しておいてくれた所を唐鍬で植え穴を掘って赤松の苗木を植えました。今年の春まではポット苗でしたが、今回はコンテナ苗と言われる今までにない方法で育英された苗木でした。コップ大の根が発育したしっかりした苗木で、芯が真っ直ぐに天を仰いでいました。終了後に国有林の方々が準備してくれた木工クラフトを行い、それぞれ作品をみやげに以って帰ることが出来ました。国有林の職員の皆様には土曜日という休日にも拘わらず、全てを準備して、安全に楽しく植林作業をさせて頂きました。心から感謝申し上げます。帰りがけに街道沿いにある、かつての植林した苗木が大人の背丈を倍するほどに成長している姿を車中から見ながら、かつての美林の姿に戻ることを期待しながら帰ってきました。



植樹作業の様子



## 11月第2例会（役員会）報告

日 時：11月17日（金）18：30～

場 所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、内海書記、

協議事項

1. 12月例会（クリスマス讃美礼拝・祝会）の件  
日 時：12月15日（金）午後6時～  
場 所：日本キリスト教団西那須野教会  
内容：パイプオルガンによる燭火礼拝と祝会  
招待者：養徳園、ユースリーダー、YMCA活動協力者、リーダーOB。（無料）  
会費：1,500円（メンバーのみ）  
その他：メンバーに一品持ち寄り  
詳細については、12月役員会で協議。  
クリスマス案内のチラシ作成を田村会長に依頼する。
2. シイタケ昆布の購入時期  
1月例会（1月26日）に間に合うようにする。
3. ブリテンの発行  
できるだけ早く発行する
4. 北東部評議会に出席の件  
11月18日に開催の評議会に村田副会長が出席する。  
交通費をクラブより支出する。

## 12月第2例会（役員会）報告

日 時：12月1日（金）午後6時30分～

場 所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、内海書記、田村メネット

協議事項

1. 12月（クリスマス）例会のプログラムの確認  
受付、鈴木・内海、聖書朗読・祈祷、原田、奏楽、木村真貴子姉、1部（キャンドルサービス）司会、村田、メッセージとお祈り、潘炯旭牧師、第2部（祝会）司会、河野、食前の祈り、原田メネット、ゲームと歌、内海、田村、

食事は田村有希子さんに依頼。

お礼：潘牧師、木村奏楽者、3,000円。田村有希子さん、2,000円。会場費、2,000円

2. 1月（新年）例会について

日 時：1月26日（金）午後6時30分～

場 所：季節料理いとう家（那須塩原市扇町7-12、JR西那須野駅より徒歩3分 TEL0287（36）2854）

会費：3,000円（飲み物別）

内容：新年の抱負を語る

3. 1月ブリテン発行について

いつも通り早い目をお願いする。

4. その他

・アジア学院卒業式：12月9日（土）午後1時30分より、田村、村田が出席。

・3月の特別例会は、3月10日（土）風揚げ。

・第2回北東部評議会報告村田より行った。



## 今後の予定

### ・12月役員会（第2例会）

日時：12月1日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：12月（クリスマス礼拝・祝会）例会、1月例会（新年例会）、1月号ブリテンの発行等。

### ・12月（第1）例会

日時：12月15日（金）午後6時～午後8時30分

場所：日本キリスト教団西那須野教会

内容：パイプオルガンによるキャンドルサービスと祝会

会費：1,500円

### ・1月役員会（第2例会）

日時：1月5日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：1月例会（新年例会）、2月例会、1月号ブリテンの発行等。

### ・1月（第1）例会

日時：1月26日（金）午後6時30分～

場所：季節料理いとう家（那須塩原市扇町7-12、JR西那須野駅より徒歩3分 TEL0287（36）2854）

内容：新年の抱負を語る

会費：3,000円（飲み物別）

## 旧西那須野（那須西原）の緑と水（57回）

田村修也

なお上京中の5月15日に、印南文作の夫人であるトメさんは、文作さんに次のような手紙を送っているので紹介します。「御手かみ下され拝し上まいらせ候。仰の通りいさい正（承）ちいたし候。處このたびの御用わなかな御しんはいさこそと朝夕いいらし折（居）候。猶又御まい様那須のの原へ御」つくしなされし事、うみにも山にもつくしかたく、いまわたいせつな御用二御座候らいは、御身の上をたいせつ二なされべく候。又御内のことは私もたいせつ二おもしろ（居）候いば、な二事も御しんぱいなく、十ぶん二御しんりやくあたり下され候。拾六万円の御金下り御ねがいも相かないめでたく御帰りなされ候よう、ねかいまち入まいらせ候。又々御用のほどうかかいたく、御手かみまち入り候。まづわあらあらめでたく、□□く。

5月15日 とめより たんな様拝

文作夫人が、東京での陳情がうまくなくなってめでたく帰郷できることを、切に願っていることが読み取れます。東京から帰って数日後の6月13日に、印南さんと矢板さんは「那須水路試鑿之儀ニ付御願」を三島通庸県令あてに提出しました。この内容は、矢板さんが著した「那須開墾誌」には「元来此水路を開削するには、西岩崎の引入口より数百間の隧道を開鑿せざる可からず、然るに許可せられたる暁に至り、岩質不良等の為め意外に経費の増加を要することあらんも計り難く、且又隧道工事は多数の日子を要する事情あり。依て若先ず試鑿を進捗し置かば、他日の早成を期する楷梯たらんと信じたるを以て、自ら資金を才覚して試鑿の許可を請願せんと決意し」と書かれてあるように、試験掘りを願い出たのでした。しかしこれは表向きのごとで、容易に願いに応じてくれない政府を動かすことが最大の目的であったようです。このことについて、印南さん自筆の履歴書には「同年6月、先願等何等の御沙汰無之、逆（とて）是迄之姿ミテハ御聞届相成間敷ト見込、隧道試掘ヲ成シ、工事成否ヲ試ミント相談モ決シ、兩人ニテ家産ヲ抵当トシテ金5千円ヲ調達シ」と記されています。この「那須水路試鑿之儀ニ付御願」を受取った三島通庸県令は「那須原水路開鑿之儀上申」を松方正義農商務卿に提出しました。

「自費」と言いましても印南さん、矢板さんにそれほど大金があったとは考えられませんので、印南さんの履歴書に書かれてありますように両人の家産を抵当にして借入することになりました。その資金調達のために、印南さんと矢板さんは6月23日になって三たび上京する運びとなりました。幸いなことに、これまでの上京の陳情請願運動の成果で両人と親交の深かった時の品川弥二郎農商務大輔の斡旋で、第六十銀行（頭取森時之助）から五千円の借入れをする契約が成立いたしました。この五千円は明治17年5月から18年4月まで、毎月五百円ずつ分けて支払われるというもので、年利率は8%でした。

先に提出した試削願は、7月6日に樺山資雄栃木県令代理名で許可指令がありました。この日に丁度印南さんと矢板さんが東京から帰っていますが、両人が上京中に許可の内示もしくは許可指令が政府からおりていたものと思われます。そして翌日の7月7日には、既に大分県の児島三郎が150人の人夫を連れて西岩崎に陣取りを行い、その翌日には福島県安積疏水掛出張所から工夫2名が、そして翌日の9日には内務省疏水課の南一郎平が那須野ガ原に到着しています。実に素早い手回しで、まるであらかじめ筋書きが出来ていたようです。そして直ちに工事が着工され、印南さんと矢板さんは交代しながら現場に出張しています。

(以下次号へ)

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園  
理事長・園長 福本光夫

イエス様誕生の喜びは、当時のユダヤ王ヘロデではなく、地位も、財産も、家もなく、そして、占領国のローマからは人（徴税の対象外）としても見られていなかった羊飼いに最初に伝えられたと聖書には記されています。それは、イエス・キリストの生涯が、疎外された人、当時の(政治的・宗教的権威である)ユダヤ教が差別しても当然とした、重い皮膚病の人、そして地の民(アムハアレツ)と呼ばれる社会的弱者と共に歩まれることの暗示とも理解できます。その行為は律法違反と知りつつも。

さて、幼稚園最初のクリスマスの喜びは、12月2日(土)に黒羽刑務所内の希望する約230名の受刑者と分かち合う予定です。このプログラムはもう29年目になります。当日の内容は、こどもたちの降誕劇とクリスマスソング、佐野カトリック教会の上田還子シスターのメッセージ、「トリオ・フィオーレ」の皆様演奏です。当日は理解を深めていただくためにPTAから2名の保護者が一緒下さいます。また、西那須野教会からは、毎年演奏者のお礼とバス運行経費の為に献金をいただいております。

現在、黒羽刑務所には、犯罪傾向のすすんでいない人がおり、今までの職業教育プログラムだけでなく、覚醒剤や性犯罪などの個人の犯罪傾向に合わせた教育プログラムが実施され、更生プログラムの質的充実が図られているところです。ここ最近では、刑務所に高齢者の方等生活苦で初めて入るケースも増え、年金、医療、介護という社会保障制度の不備によってしまう人の最後のセーフティネットと機能している場合もあります。受刑者の方達の刑務所における処遇や人権についてはよくわかりませんが、参加される方はクリスマスのメッセージを楽しみにしています。希望を持ちつづけ、新たな人生の出発への善い機会となるよう祈ります。(西那須野幼稚園 しらゆり'17.12.1号 加筆修正)

## アジア学院だより

学校法人 アジア学院  
校長 荒川 朋子

「共に生きるために」

「共に生きるために」「みんなで生きる」という標語

は今でこそあちこちで聞かれます。しかし、この言葉が聞かれるようになったのは、日本の民間の国際協力活動が少しずつ芽生えてきた頃、つまり1970年代中頃からのようです。これは、高度経済成長期の中でだんだんと豊かになってきた日本人に対して、新しく生まれた国際的な活動をするNGOなどが、日本国内だけでなくちょっと目を外に向けてもっと大変な状況にある人たちのことを考えてみよう、できることが私にもあるはずだということを促すために、「共に生きるために」という標語を掲げて、支援を呼びかけたわけです。今回はこのように最初に日本のNGOでこの「共に生きるために」「みんなで生きる」という言葉が使われるようになったいきさつをご紹介します。

愛媛県宇和島出身の医師でネパールの山間部で18年間医療活動を続けた岩村昇という方がいました。12年前にすでにお亡くなりになっていますが、ヒマラヤの赤ひげ先生として、キリスト教会でもNGO界でも大変有名なお医者様ですからご存知の方も多と思います。岩村先生は生涯を通じて多くの人に多大な影響を与えた方ではありますが、私自分が国際協力に関わるようになったきっかけになった方のおひとりでもあります。私が高校1年の時に岩村先生が私の母校の群馬県の新島学園にキリスト教週間の時に講師としていらっしやいました。(ちなみにその翌年に高見敏弘先生が新島学園にいらっしやいました。私はこの強烈なお二人のキャラクターに当時大変影響を受けました。)この岩村昇先生がネパールでの山間の僻地で医療活動をされていた時に、遠く離れた村からある男性が病人を3日間背負って岩村先生の診療所にやってきたことがあったといひます。その男性は担がれてきた病人の息子でも家族でもなく、単なる近所の人であったので、岩村先生がその男性になぜそこまでするのかと聞きました。するとその男性はネパール語で「サンガイ ジウナコ ラギ (みんなで生きるために)」と笑って言いました。岩村先生はこの言葉に大変感銘を受けたということです。そして後に岩村先生のお作りになったNGO(PHD協会)でこの「みんなで生きるために」が標語になり、それから他のNGOもその影響を受けて、「共に生きるために」とか「みんなで生きる」という言葉がだんだんと使われるようになっていったということです。

さて病人を運んできた男性が時間もお金もあって、余裕があるからそうしたのではないことは明らかです。たぶん自分の生活もぎりぎりのところでやっていて、でも自分よりも困っている人のために、自分は少なくともその人よりも体力があるのだから、みんなで生き

ていきていくための当然の行為として病人を運んできたのだと思います。持たない人は、持てる人よりも、もっと自由にもっと自然に大切なものを分かち合うことができることがわかります。

アジア学院の学生もよく、それと似た自身の生い立ちの話をします。自分は妹や弟を高校や大学に行かせるために進学をあきらめた。また母が死ぬ思いをして自分を学校に行かせてくれた。だから精一杯それに報いなくてはいけない、といったような話です。他人のために自分が犠牲になる、また自分のために誰かが犠牲になる、そうやって助け合って、支えあって、命をつないでいく。それをごくごく自然にやってのけているのです。アジア学院の学生と一緒に生活をしていきますと、彼ら、彼女らは大勢と一緒に働くこと、生活することにとっても慣れている、というよりもそれが普通であるという人が多いと感じます。人と一緒に何かをするのが当たり前、周りに大勢人がいて当たり前、うるさくて当たり前、じゃまされて当たり前、子供が周りに飛び回っているのが当たり前、つまり雑然としていて、複雑で、自分の思い通りにならないことだらけの生活を送ることに慣れているんです。

「共に生きるために」ということは、分かち合うということ。分かち合うというのは、分かち合った分、何かをあきらめる、犠牲にするという意味でもあります。でもそれは損をすることとは違います。分かち合うことで、豊かになることが究極の分かち合いであり、共に生きることの真の意味です。そして分かち合うものが自分にとって大切なものであればあるほど、分かち合いの意味が深まります。その分、人間は豊かになれます。「共に生きること」を目指して、悩んだり苦しんだりしている人間らしい姿を、貧しい国から来て、山ほどの深刻な問題を抱えているアジア学院の学生たちに私は常々見ます。過酷な状況の中で限界がほぼ見えていても、決してあきらめず、おおらかにしたたかに問題対処をしようとする姿に私はいとおいしいほどの人間らしさを感じ、同時にそこまでして彼ら、彼女らがそういう生き方をしようとするのはなぜなのかを考えさせられます。恐らく多くの学生は「共に生きる」ことを放棄してしまった社会は、差別、偏見、対立を生み、最終的には戦争という究極の選択をしてしまうことを体験的に、また身近な歴史的事実として知っているからだだと思います。私たち日本人もそうであるはず。アジアの近隣諸国と「共に生きる」ことの意味を履き違えて、自国の利益のみを追求しようとした結果、先の大戦があり、その結果大きな悲劇を経験したと私は思っています。アメリカも、他の国の人たちも皆、同じであるはず。しかし人はそれをすぐ忘

れてしまいます。「共に生きる」方向性から外れた時に、人は社会はどうなるのか、それは歴史が語っているはずなのに、なぜ人はまた同じ過ちを繰り返そうとするのでしょうか。これは私たち全員に与えられている永遠の課題なのだと思います。

クリスマスを間近に控え、「共に生きる」ことがもっと自然に、もっと当たり前に行ける人間に変われるように、神様に祈っていきたくと思います。

## YMCAだより

### 【さくらんぼ幼稚園バザー報告】

11月3日(金)に「みんなでワイ・Y・さくらんぼバザー2017」が開催されました。今年も好天に恵まれ、大変多くの皆様にご来場頂くことが出来ました。また、毎年恒例の焼きそば、フランクフルト、石窯ピザなどたくさんの出店や献品コーナーなどへたくさんの方にご来場いただきました。あらためまして関係者の皆様に感謝申し上げます。このバザーを通して、約110万円の収益を得ることができました。この益金は、国際協力募金への寄付、ユース支援、国内の貧困問題、幼稚園の教育環境改善のために使わせて



頂きます。皆様のご理解ご協力に対し、関係者一同、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

### 【フェアトレードまつりに出店しました】

11月12日(日)オリオンスクエアにてフェアトレードまつりが開催されました。フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。フェアトレードを多くの方に知っていただくために、2010年から毎年宇都宮市でイベントを行っております。フェアトレード商品の販売、アジアの香り漂うエスニック料理屋台、ステージでのパフォーマンス、キッズコーナーなど色々な方に楽しんでいただけるブース、催しが盛りだくさんです。とちぎYMCAからは大浦・内海が実行委員として参加しました。また、YMCAの出店ブースではフィリピン・北タイの民芸品をフェアトレード商品として販売しております。

【出会いと体験の森ヘリリーダーズキャンプに参加してきました!】



11月3日(金)～5日(日)に大和の森高萩スカウトフィールド(茨城県高萩市)にて出会いと体験の森ヘリーダーズキャンプが開催されました。このキャンプは、人を育てるキャンプに携わる5つの団体(YMCA、YWCA、日本キャンプ協会、ボーイスカウト



日本連盟、ガールスカウト日本連盟)が、実行委員会編成をして開催したキャンプです。全国からの参加者が、

パイオニアリング、野外炊飯、テント生活、キャンプファイヤーを通して、参加者同士の交流をしたり、キャンプ技術の向上などを行いました。とちぎYMCAからは那須YMCAで活躍するととリーダー(稲川聖也)とてんしょんリーダー(齋藤憲翔)が参加しました。今回参加したリーダーが、今回の経験が糧となり、YMCAでのボランティア活動が実り多きものとなりますように願っております。この度は貴重な機会を頂きどうもありがとうございます。

#### 【とちぎYMCA・那須YMCAの12月の予定】

- ・12/2(土) 那須英会話クラスクリスマスパーティー@那須YMCA
- ・12/3(日) スキーキャンプ打合せ会@宇都宮YMCA
- ・12/4(月)～12/6(水) 北関東YMCA・東京YMCA合同スキーディレクター・スタッフトレーニング(3名のスタッフが参加します)
- ・12/9(土)～12/11(月) 北関東YMCAスキーリーダートレーニング(19名のリーダー、4名のスタッフが参加します)
- ・12/9(土) 足利YMCA市民クリスマス
- ・12/16(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園
- ・12/23(土) サンタDEラン@宇都宮城址公園
- ・12/28(木)～ウィンタープログラムがスタート

### 第2回北東部評議会報告

副会長 村田 榮

11月18日(土)午後1時から仙台YMCAで開催された第2回北東部評議会に村田が出席してきました。出席者は16名、委任状28名でした。内容は報告事項として、第1回評議会議事録、部長報告、主査活動報告、各クラブ活動内容の紹介、東日本区役員会報告、エクステンション委員会報告がありました。

協議事項としては、①ユースリーダーズアクト2018が4月14日(土)・15日(日)にとちぎYMCAで開催することが承認されました。②北東部バナーの作成が承認されました。③東日本大震災支援事業助成金50,000円が承認されました。その他としては、①次年度の各クラブの役員選出を急いでほしいとの依頼がありました。②2019年7月に仙台で開催されるアジア地区大会について話し合われました。

### ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

1. 照沼 歩莉(.みるき) ※写真左側
2. 国際医療福祉大学・放射線学科1年
3. 茨城
4. 友達に誘われて
5. 11月のYキッズ。プログラムリーダーを初めてやったから
6. 放射線診療技師になる
7. 出来るだけ活動に参加できるようにしたいです!



1. 吉田朱里(じゅりあん)
2. iwakiヘアメイクアカデミー・1年
3. 福島県
4. ピースセミナー
5. フィリピンでのワークキャンプ。ずっとやってみたかった海外ボランティアでたくさんの事を学ばせてもらい、成長することができたから
6. 美容師
7. YMCAは可能性が無限大





那須ワイズクリスマス例会のご案内 2017, 12, 1

那須ワイズメンズクラブ会長 田村修也

光は暗闇の中で輝いている。ヨハネ1:5

シャローム 今年も季節が廻り巡って12月を迎えました。師走という言葉の中に、今年なすべきことでまだ果たしていないことはないかの点検と、来たるべき年を迎える備えに怠りないかという緊迫感を感じます。

一日一日が走るように過ぎ去っていく中で、大型台風20号・21号による被災者の方々、そして様々な困難の中にある方々に主の御支えを心からお祈りいたします。また、復旧に取り組んでおられるすべての方々のお働きに感謝いたします。1日も早い復興復旧を心からお祈りいたします。

重ねて、世界中で今この時も続いている、政治危機、飢餓、迫害、差別、弾圧、災害、疾病・伝染病、貧困等々を一刻も早く乗り越えることが出来ますように祈ります。そのためにも私たち細やかな活動が用いられますように。

さて、今年も養徳園の皆様やYMCAの学生リーダー、そして活動をご支援して下さった皆様をお迎えして、クリスマス例会を下記のように開催いたしますので、ご出席くださるようご案内いたします。

## 2017年度 那須ワイズクリスマス例会

1. 日時：2017年12月15日（金）18:00～
2. 場所：西那須野教会礼拝堂とホール
3. 内容：
  - 第1部 パイプオルガンによるキャンドルサービス（燭火礼拝）  
希望と喜びのクリスマス（仮題） 西那須野教会牧師 潘 炯旭
  - 第2部 クリスマス祝会
    - 愛餐会 スペシャルデナー
    - お楽しみ会
    - その他
4. 会費：ゲストは無料（ご招待）  
会員は1,500円

